

平成31年度 足利中央特別支援学校 学校評価結果

評価基準 A:達成できた(80%以上) B:概ね達成できた(50～79%) C:あまり達成できていない(20～49%) D:達成できていない(19%以下)									
重点目標	推進担当	達成目標（評価項目）	評価の観点	教職員自己評価	保護者アンケート	総合評価	考察	改善策	学校評議員からの意見・評価
1 防災体制の充実を図るとともに、防災教育、安全教育を推進する。 ○各種訓練や安全学習・安全指導の充実を図りながら、児童生徒が自らを守るために必要な判断や行動ができるようにする。	児童生徒指導部	・通学や校外での学習の場面で児童生徒が自らの身の安全確保を行うことができるようになる。	・自転車通学生が目視の仕方など安全を確認する方法について、交通講話や体験的活動を通して、自発的に考え、適切な行動を取ることができるようになった。 ・交通安全教室や交通安全週間を通して児童生徒に道路の通行の仕方や交差点の渡り方を身に付けさせることができた。	A:9% B:80%	A:49.5% B:30.4%	B	・中学部において自力通学の練習を積極的に行い、自転車で通学できる生徒が増えた。高等部では危険予知トレーニングを行い、交通場面で出会う様々な危険を考え、対応できる力を身に付ける練習に取り組んだ。 ・小学部は交通安全教室の期日や外部講師の都合で12月に設定となり、実際はインフルエンザ流行に伴う複数学年の閉鎖で実施できなかったが、毎週徒歩学習で道路の歩き方や交差点の渡り方に取り組んでいる。	・高等部・中学部の自力通学生に対して引き続き危険予知トレーニングを行い、事故が起り得る状況の理解を深め、実際の交通場面で事故に合わないような行動を取れるようにする。 ・児童生徒の発達段階に応じた交通安全週間中の交通安全指導を積極的に行う。全学期9月に交通安全教室を実施し、年間を通して交通安全教育に取り組む。	・かじか橋のところで車と本校の生徒が譲り合っ てなかなか動かないことがある。譲る動作を身 につけると良いのではないかと。 → 生徒への指導と立時指導による見守り で対応。 ・危険予知トレーニングは児童生徒だけでなく、 教員も行うとどのような危険があるのか意識で けるようになって良いのではないかと。 → 研修も検討 していく。
	健康指導部	・安全・防災学習や訓練を継続して行い、チェックシートを活用し、発達段階に応じた「身を守る行動」の定着を図る。	・発達段階に応じた目標(小・だんごむしポーズの定着、中・教室内で机の下にもぐることの定着、高・教室以外での避難行動の定着)を設定し、チェックシートを活用し(PDCA)を継続することで避難行動に変容や定着がみられた。	A:41% B:55%	A:57.9% B:32.2%	A	・昨年に引き続き「定着」を図ることを目標に、継続した指導の結果、昨年同様の評価であった。小学部では学部研究に防災教育を取り上げ、意識して取り組んでいることも評価につながっているのではないかと。そして「避難行動が習慣化してきている」「継続指導の有効性」等の意見や、訓練時の反省からも細かな部分での疑問点があがってきており、教員の防災意識も高まってきていることを感じる。	・継続の有効性や大切さを実感されている意見もあり、今後も継続した指導の実践が必須である。 ・チェックシートの活用に関心があることの見解があった。シートは児童生徒の定着、成長に教師が気づく、児童生徒の指導や評価に役立てられるよう活用の提案をしている。今後も活用の周知、啓発に努める。	
	特別活動部 健康指導部	・運動会やみどり祭において、災害時(主に地震)における避難マニュアルの作成をする。 ・避難の仕方について保護者への周知や各学部での避難訓練を行い、適切な避難方法の確認できた。	・市民体育館での避難経路を検討して避難マニュアルを作成することができた。 ・避難の仕方について、保護者に事前に通知したり予行練習や当日に児童生徒や保護者にわかりやすく知らせることができた。 ・みどり祭での避難マニュアルの確認を行い、予行練習等で避難訓練を行い、速やかに避難誘導を行うことができた。	A:43% B:52%		B	・運動会(市民体育館)の避難については、児童生徒、保護者の避難の仕方、避難経路、避難後の対応など検討し、マニュアルを作成できた。みどり祭については、昨年度の避難マニュアルを再度検討し、より良いものを作成することができた。 ・運動会(市民体育館)での避難訓練を行うことは難しいが、体育館での避難の仕方を説明したり、教員の動きの確認をしたりする必要があるのではないかと。みどり祭では、予行練習や作業時間に各学部での避難訓練を行うことができた。	・運動会については、作成までの期間が短かったため、細かい部分での検討が必要。(会場の避難経路、誘導の指示等) ・運動会(市民体育館)では、避難訓練を行うことが難しいが、避難の説明などできることは行う。また、児童生徒、保護者への周知徹底を今後も引き続き行う。みどり祭を想定した訓練は、今後も引き続き行い、避難方法、避難経路の確認を行う。	・運動会で嘔吐があったときの対応について、 観客で見ている方は何をしているのか分からず 観客席がざわついた。何が行われているのか 案内があっても良かった。 → 次年度に向けてアナウンスすることをマニュアル に載せた。
2 児童生徒の自立・社会参加に向けたキャリア教育の充実を図る。 ○卒業後の進路を見据えた各学部段階の指導の重点(指導内容)及び指導方法を確立し、体系化する。	進路指導部 キャリア教育委員会 各学部主事	・各学部における挨拶に関する指導内容及び指導方法を確立し、児童生徒の挨拶行動の定着を図る。	・各学部の目標に沿った挨拶行動の定着がみられた。また、児童生徒の挨拶行動に変容がみられた。 ※各学部の目標(小学部・身近な教師から挨拶をされて挨拶できる。中学部・教師から挨拶をされて挨拶できる。高等部・自分から挨拶できる。)	A:20% B:72%	A:65.4% B:27.2% A:62.7% B:25.8%	B	・取組の努力点について、学部ごとに説明を行ったことで周知を図ることができ、日頃から挨拶に関する指導を実践してきた教員にも改めて意識する機会になったのではないかと考える。しかし、周知する時期が遅くなり、努力点に沿った指導に十分な時間を確保することができなかった。そのため、児童生徒の挨拶行動に変容が見られるまでには、更に時間をかけて取り組む必要がある。	・指導事例を蓄積するとともに、適宜努力点の見直しを行いながら、引き続き取り組んでいく。 ・キャリア教育委員会において、作成した挨拶に関する指導活用資料を活用し、教員が将来を見据えた系統的な指導を意識できるようにする。	・実習に来る生徒は良く挨拶ができている。校内のみならず、校外でも良くできていると思う。 普段かかわりが薄い人にも挨拶ができるように指導をお願いしたい。 → 各学部で作成した脱履表に従って指導 を行っていく。
3 地域と連携した学校作りを推進する。 ○学校の情報提供を行い、開かれた教育課程の実現に努め、地域の教育資源を活かした学習を充実させる。	教務部	・本校や特別支援教育の理解啓発のために、ホームページの定期的な更新を行い、興味関心につなげる。	・更新計画に基づき、学年・ブロック等で、月一回は更新することができた。 ・記事に①ねらい②学習内容③児童生徒の定着等本校教育の深い理解につなげられる内容を盛り込むことができた。 ・月一回程度更新情報を伝え、HPを見てもらう工夫をすることができた。	A:24% B:70%	A:58.1% B:33.2%	B	・毎月HPの更新計画を発信し、それに基づき各担当が更新することができた。 ・記事の内容についても、行事のねらい等も入れて作成するように意識するようになってきた。 ・更新情報を伝えることはできなかった。今後、よりHPを見てもらえる工夫が必要である。	・引き続き更新計画を発信し、計画的なHPの更新を行う。 ・月前半の行事は月末までに、月後半の行事は翌月15日までになど、更新する期限を区切り、定期的に更新する意識を高めていく。常に新しい情報に更新することで、保護者や地域住民が興味を持てるようにする。	
	渉外部 地域連携係	・地域連携推進計画に基づいて、地域連携一覧等から地域の教育資源を生かして学習活動を実施する。	・地域住民や地域の諸団体を招いて引き続き、各学部で授業の実施をし、学習活動の実施状況を発信することができた。	A:26% B:69%	A:54.6% B:36.4%	B	・昨年度からの取り組みを継続し、各学年・ブロックで計画・実践することで定着を図れたと共に、新しい取り組みを行えた事例もあった。 ・行事との兼ね合いもあり、年度半ばまでに実践・発信をすることが難しい学年・ブロックもあった。また、HPや学年便りなどでアピールをしていく工夫も必要である。	・地域連携授業の実施に向けて、計画的に実施できるよう、係からの周知・声掛け等を行っていく。 ・実施後はHPや学年便りなどへの掲載を行い、保護者や地域に向けて発信を続けていく。	
	地域支援部	・本校の教材・教具展、その活用研修、知的障害研修で本校の教材情報を発信する。また、外部参加者紹介の教材で活用する。	・外部参加者のアンケートで使いたい教材・教具があった。また、外部参加者紹介の教材・教具が本校で使われるようになった。 ・教材・教具展や研修等の外部参加者からアンケートで本校の教材・教具を使いたいとの回答が9割近くあった。	A:18% B:75%	A:57.5% B:33.6%	B	・地域支援部より保護者に配布し、校外への啓発と支援について知らせることができた。 ・教材・教具展や研修等の外部参加者からアンケートで本校の教材・教具を使いたいとの回答が9割近くあった。	・保護者へは地域支援部より配布を継続して行う。 ・外部の教材・教具をホームページにUPしたことを、本校教員に周知・声かけ等を十分行う。	
4 教職員一人一人が専門性の高い教育に取り組む。 ○学習指導要領の改訂を受けて、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業作りを実施する。	教務部	・授業作りのPDCAサイクルの更なる定着を目指し、一人一回主指導の授業を公開し、授業についての検討会を行う。	・主指導の授業を公開することができた。 ・担当以外の授業を一回は参観することができた。 ・授業(指導)の良い点・改善点に着目し、授業を参観すると共に検討会やアンケートシートで意見交換をすることができた。	A:17% B:65%	A:66.8% B:27.2%	B	・公開授業はほぼ全員が行うことができた。授業研究会についても、授業担当者が中心になってしまったが、振り返りをして次につなげることができた。 ・授業を参観するのは時間的に難しくあまり進まなかったため、今後の課題である。	・全員が期日内に公開授業を実施することができるように、周知・声かけ等を十分行う。 ・予定表を一月単位等にして、授業者も参観者も見通しをもって計画的に実施できるようにし、授業者も参観者も主体性をもって取り組むように促していく。 ・引き続き、授業のVTRを撮り、参観できなかった教員も様子が見分けるようにする。予定表に授業研究会の期日の欄も設け、参加を促す。	・授業は基本であり、一人一回の公開授業の取組は素晴らしい。参観が難しいというのだが、ビデオを活用して無理のないように続けて欲しい。 → 授業を行うための話し合いや事後の話し合い によって、様々なことが学べるので、 次年度以降も実施 していく。
	学習指導部	・児童生徒が自発的・意欲的に取り組める授業作りにつめるため、教科等の単元における展開計画を整備する。	・昨年度、展開計画の評価(C)で明らかにになった効果的・有効な視点や工夫点を今年度の授業改善(A)に活かし、PDCAサイクルを計画的に進めることができた。 ・展開計画の作成の充実を図り、計画的に授業を進めることができた。	A:37% B:57%	A:66.8% B:27.6%	B	・昨年度からの取り組みが活かされた結果となった。展開計画の評価(C)で明らかになった「授業の評価」や「指導の評価」を受け、授業改善(A)に活かしたことで、児童生徒が自発的・意欲的に取り組める授業作りにもつながることができた。 ・昨年度まで展開計画作成が不十分であったところに関して、徐々に充実が図られ、計画的に授業を進められるようになってきた。	・次年度もさらに、児童生徒が自発的・意欲的に取り組める授業作りにもつなげるため、展開計画の充実を図っていく。	